



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

12月号—No.307

2020.11.25

(毎月1回25日発行)



パッサホルン管弦楽団ニューイヤーコンサート(宮城県加美町)

●目次／contents

今月のニュース..... 2

特別企画「新型コロナウイルス感染症拡大と向き合う全国の公立文化施設などの職員からメッセージ」

財団からのお知らせ..... 5

令和3(2021)年度ステージラボ開催地のお知らせ／雑誌「地域創造」第46号発行時期変更のお知らせ／令和2(2020)年度市町村長特別セミナー「地域経営塾」終了報告／オンライン研修の申込時期のお知らせ

クリスマス&年越し・新春企画特集

公演カレンダー..... 6

今月の情報..... 9

地域通信

制作基礎知識シリーズ Vol.47..... 10

文化庁の新型コロナ支援策

今月のレポート..... 12

大分県大分市 iiichiko総合文化センター
グランドオペラ共同制作『トゥーランドット』

【特別企画】新型コロナウイルス感染症拡大と向き合う 全国の公立文化施設などの職員からメッセージ

新型コロナウイルス感染症拡大により、施設が休館し、多くの事業が中止・延期になるなど、文化・芸術分野においても大きな影響を受けることとなりました。現在では、施設の再開とともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止策等を講じながら、さまざまな工夫のもと、事業が徐々にスタートしています。こうしたなか、地域の文化・芸術に携わる方々は、長期間準備を進めてきた事業が中止・延期になり悔しい思いをしたり、コロナ禍における施設の運営や事業実施について苦慮されたことも多かったと思います。そうした思いをレターを通じて共有していただければと、公立文化施設などの最前線で日々努めていらっしゃる職員の方々からメッセージをいただきました。回答にご協力いただきました皆様、どうもありがとうございました。

*表記は上から所在する地方公共団体名、施設名または所属団体名、氏名、所属年数、現在の担当業務

●青森県八戸市

八戸市新美術館建設推進室

大澤苑美

[新美術館に異動して1年目(文化政策部署時代と合わせると9年目)/展覧会や市民協働・連携事業の企画、アートプロジェクト(八戸工科大学)]

八戸市では、2021年度夏～秋以降の新美術館オープンを目指しています。私たちの美術館は「出会いと学びのアートファーム」をビジョンに掲げており、展覧会や各種事業のプロセスで、市民の方との協働やアーティストによる地域資源リサーチを重要視しています。が、このコロナ禍で、特に県外から訪れるアーティストと市民の出会いの場を作りづらく、頭を抱えています。アーティストを地域コミュニティにお連れしてよいのだろうか、対策はどうしようか、PCR検査どうする!?などなど、神経を尖らせています。また、建設工事に影響が出ないよう、私たちも出張を控えているところです。個人的には、近隣の美術館、博物館や民俗資料館を改めて見る機会にし、さまざま発見と学びがありました。

私の担当するプロジェクト「八戸工科大学」はオンライン実施に切り替えました。オンライン環境が整わない方や苦手な年齢層を除外することにならないよう、会場参加も用意するなど試行錯誤しています。

●宮城県蔵王町

蔵王町ふるさと文化会館(ございんホール)

岩淵大輝

[4年目/文化会館主催事業(音楽アウトリーチ事業、音楽の絵本コンサート)、公民館・文化会館施設の維持管理、文化会館公式Webサイト管理・更新]

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、3月に施設の貸館を中止し、その後、国や県の感染症対策指針に基づいて段階的に施設利用を再開しました。主催事業は8月下旬から再開し、ホールの収容人数を半分(227人)にしたほか、消毒薬や空気清浄機の導入、会館入口に設置したサーマルカメラによる体温測定、混雑防止のため入退場時の人数制限などを実施しております。初めてのことでばかりなので、舞台業界の講習会に参加し、感染症対策を実際に見て学び、現場に反映しました。運営状況としては、感染症対策で必要な物品(サーマルカメラや空気清浄機、消毒用アルコール等)の購入で歳出が増大した一方、施設使用料が減少する見込みであるため、次年度の予算作成に

苦労する状況です。

感染症の影響で、事業の開催直前まで中止になる可能性があるほか、事業終了後も会場にいた人から感染者が出なかったかどうか、担当者としては日々心配な状態が続いています。

一方で、事業が無事に開催され、想定よりも多くの方々にご来場いただけたこと、公演を楽しんでいただけた様子が見られたことは、この状況下で非常に感慨深いものでありました。

●福島県いわき市

いわき芸術文化交流館アリオス

谷健治

[2年目/アウトリーチ事業(おでかけアリオス)]

アウトリーチ事業では、1学期に実施を予定していた小・中学校や地域でのコンサート・ワークショップはすべて中止・延期になりました。延期日程をどう設定したらいいか、先の見えない状況の中で強く印象に残ったのは、学校や地域の方々とやり取りする中でたびたび同う「さまざまな行事が中止となっている状況なので、ぜひとも実施してほしい」という言葉でした。この言葉は、アートの(ある一面における)使命や責任を改めて強く感じさせると同時に、アートが地域社会に少しずつ浸透していているという嬉しい確信を与えてくれるものでもありました。この言葉に背中を押してもらうようにして、現在はアーティストと一緒にこれまでとは少し違うプログラムをあれこれと考えながら、さまざまな学校・地域でアウトリーチ事業を実施しています。

また、私にとってコロナ禍は「人が移動し、集まる」ことを前提とした表現の更なる可能性を探る契機になりました。コロナ禍の時代だからこそ、「表現とは何か」という問いに、根源からアーティストと共に向き合い、ジャンルを越境しながら、その時にできる方法で段階的に作品を創るプロジェクトを始めました。試行錯誤の果てに、どのような作品が生まれていくのかという期待を胸に、2020年冬の日常を過ごしています。

●茨城県小美玉市

小美玉市四季文化館(みの〜れ)

山口高容

[2年目/自主事業の企画、施設管理]

これまで住民主役・行政支援による運営を続け、日頃より賑わいを見せていた四季文化館(みの

〜れ)。今回の新型コロナウイルスの影響により休館やイベントの中止・延期を余儀なくされ、住民の方々が来ない文化センターがこれほどまで寂しいものとは考えてもみませんでした。

そのような中で、念入りに新型コロナウイルス対策を行い、ようやく8月に野外の映画イベントを開催すると、来場者からは久しぶりのイベントを「楽しんだ・元気が出た」などの多くの意見とともに、協力してくれた住民スタッフからも「充実した時間を過ごすことができた」と意見をいただきました。館職員としても久しぶりの文化センターの賑わいに胸が高鳴り、改めてイベントの必要性、文化センターの人が集まる場としての重要性をコロナ禍により知ることとなりました。

今後コロナ禍に負けず、これまで以上に住民が主役となる文化センターを目指し、住民と協力しながら事業を進めていきたいです。

●埼玉県東松山市

東松山市市民文化センター

菊地俊孝

[21年目/副館長]

新型コロナウイルスの拡大により、当ホールにおいても多大な影響を受けました。当ホールでは利用料金制による指定管理者制度が導入されていますが、利用料の大幅減によりその対応に苦慮しています。今後数年で利用が戻ることは考えにくく、利用料金制度はほぼ成立しない状況と考えられます。その中で今、公共ホールがなくてはならないことは何か考える時期にきています。施設を機能させ、受け継がれるべき地域の芸術文化を次世代に伝えていくこと。このような事態であってもその任務をきっちり果たしていくことは公共ホールを運営していく者の責務だと感じています。しかし、これはもはや指定管理者だけの問題ではなく、行政とともに考えていくべき問題であり、どのような形で地域に公共ホールを活かしていくかを再考すべき時、議論すべき時だと感じています。

●福井県福井市

ハーモニーホールふくい

佐々木玲子

[開館準備を含め24年目/事業部事業課長、チーフディレクター]

相次ぐ公演中止の決断にホールで生演奏をお届

けできない無念さを抱くとともに、covid-19に関する正しい情報・知識を得られないことに事務局内が混沌とした3～5月。県民の皆様にも鑑賞の機会も発表の場も提供できない中、5月末には、web講座としてベートーヴェンにまつわる寄稿や映像による講座を制作しファンへの発信を開始。演奏配信を行わなかったのは制作チーム全員の生演奏に対するこだわりと意地でした。並行して、当ホール独自に専門医師の指導監修を仰ぎ、6月には医学的根拠に基づき感染拡大防止対策指針を発表し、公演再開に向け大きな一歩を踏み出しました。

7月末の公演再開後は、フロントスタッフが対策指針に基づく来場者への協力依頼に苦慮する場面もありましたが、公演回数を重ねるごとに改善されました。毎公演、来場者からは「これだけ対策されているなら安心」との声をいただいています。再開後の公演がすべて売り切れ、追加公演も行うという状況から、ホールのファンの中に生演奏に対する渴望感と期待感の強さをうかがい知ることができました。

今後、県民の皆さんが、安心して鑑賞・利用できるよう、正しい知識とこだわりをもって工夫を重ねていきたいと考えています。

●長野県上田市

上田市交流文化芸術センター

小金沢詩穂

[2年目/総務・貸館]

2月末頃から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自主事業はもちろん、貸館の公演もすべてが中止や延期となりました。それに伴い、自主事業では中止のお知らせやチケットの払い戻し、貸館では使用料の還付などの処理に追われました。

その後も、ソーシャルディスタンスを保つために座席へ設置する「着席不可」と書かれた札を手作りしたり、カウンターに設置する飛沫防止シートを舞台技術スタッフに作成してもらうなど、安全に公演を開催するための地道な作業が続きましたが、その甲斐もあり、7月から自主事業と貸館を再開することができました。

今までに経験したことがない状況の中で対応に悩むこともありますが、スタッフ一丸となって乗り越えていきたいと思っています。

●静岡県

SPAC・静岡県舞台芸術センター

仲村悠希

[13年目/アウトリーチ(地域活性化・学校訪問)]

SPACでは、毎年ゴールデンウィークに開催している「ふじのくににせかい演劇祭」が中止に。自分一人ではここで絶望し、思考停止してしまうところですが、俳優・スタッフ一人ひとりが「今こそやるべきことは何か」という意見を持ち寄り、オンラインで開催する「くものうへにせかい演劇祭」が立ち上がりました。オンラインでの演劇祭(かつ在宅ワーク)という初めての試みは手探りで進められ、ストレスも多かったのですが、短期間でここまでの方針転換を成し遂げられたことはSPACの組織としての強みでも

あると思います。

6月以降、学校訪問のアウトリーチでは、休校や感染症対策で当初の計画通りに実施できるか不安でしたが、「子どもたちが窮屈な思いをしている、こんな時期だからこそ来てほしい」という声も多く、その声に応えるため感染症対策を万全にした作品創りが始まりました。最小限の人数での稽古、フェイスシールドを組み込んだ衣裳、俳優は発声を制限するなど、不自由な制約の中で、いかに自由な発想で新しいものを創造するかという挑戦。子どもたちの前で生の反応を見ながらやっと上演できたときは、例えようのない喜びに溢れました。

今、公演を続けるために、演劇を必要としている人に届けるために、考えることや歩みを止めてはならないと思うと同時に、発声を制限された舞台上の俳優や間隔の空いた客席を見ながら、これが当たり前にならないでほしいと強く願っています。

●愛知県豊橋市

穂の国とよはし芸術劇場PLAT

上栗陽子

[財団9年目(内PLAT所属7年目)/演劇・ダンス事業担当等(事業制作部)]

[3月～]主催事業が少ない時期だったこともあり謝金や契約関係のトラブルがなかったのが幸いでした。9月までに販売済みで払い戻し対象となった公演は主催10事業、貸館11事業(主に地元文化団体)。貸館の主催者から不安の声や実施可否の問い合わせが続く、実は主催事業よりもその対応に神経を使うことが多々発生。PLATでは貸館のチケット委託販売も行っていますが要綱に払い戻しに関する細かな記載が当時無いため各所との協議が必要でした。中止もしくは延期か、振替か払い戻しか。購入や払い戻しに係る手数料の負担先についても主催者へ細やかな説明を求められます。

4月13日に5月6日まで休館にすると発表。5月以降は市が1週間おきに休館延長を決定するため先の見通しに苦労します。未曾有の事態なので、主催者、市民とも話を重ねたことでこちらが示した方針に理解していただけることは多く助かりましたが、普段から顔が見える関係性を構築していたことがその後の流れをスムーズにできたのだと感じます。【現在】野外イベントや生活の場で密状態なものを時折見受けられますが「劇場は満席だと行きたくない」という市民の声は根強いです。客足が戻るまで時間はかかるでしょう。その声を無視できないですが、手探りでもいいので劇場の発信力を高めて存在を表すことが今必要なことだと強く感じています。

●三重県津市

三重県文化会館

鈴木智之

[9年目/音楽事業係長]

2月23日以降、主催公演(音楽・演劇合わせ)延べ40公演を中止・延期しました。3月以降は払い戻しの対応に追われながら、先々の公演を実施するかどうかを判断する毎日が続きました。その中でも

緊急事態宣言解除後にいち早く劇場での鑑賞事業を再開するべく、ピアニスト田村緑さんに企画提供・監修をいただき、「マイベストシートコンサート」を実施。3組の地元アーティストと公演を行ったことは、劇場で生の芸術を味わう大切さを改めて実感しました。

コロナ禍での施設運営はまず職員間・部門間での感染リスクに対する温度差の違いを埋めるところからスタートしました。再開にあたり「劇場で一人も感染者を出さない」を合言葉にさまざまな部門から人が集まり意見を交換し、施設独自のガイドラインを作成。現在でも状況に合わせ柔軟に見直しを行っています。正解のない中、手探りで自分たちの答えを導き出すことは大変でしたが、全国各地の劇場職員と状況を共有し、一つの壁に立ち向かえたことは大きな力となりました。

●滋賀県長浜市

木之本スティックホール

加藤哲

[2年目/企画・運営]

コロナ禍における事業に関しては、感染拡大の状況の変化に呼応するように、行政の指導、出演者の感情、お客様の反応などが刻々と変化し、その対応には迷うことが多かったです。行政から中止せよとは言ってきませんが、示された感染防止対応策は解釈によって実行不能ととれる内容が多かったからです。「直近海外から帰国したかどうかを確認できているか」という内容は、本人に聞く程度で良いのか、調査せよというのか。何とかが開催したいという方向か、もう無理だとお手上げしてしまうかで対応は異なっていくのです。

4～5月の閉館時期を終え、6～7月以降、徐々に活動を再開していく中で、アーティスト側の意識が変わります。演奏活動をしたいという欲求が抑えられなくなります。また、同時期に聴き手側も生演奏を求める欲求が湧いてきます。8月末の事業再開後は盛り上がりを見せましたが、今は少し落ち着いています。感染防止策は一定の安定感を保って実施できていますが、座席数の設定、出演者のマスク利用の有無、面会の対応などは個別に意見を聞き話し合って決めなければなりません。そして何よりお客様の反応を機敏にとらえて判断していく必要があります。また、この先予定をどう組んでいくのかなど、悩みは尽きないところです。

●兵庫県伊丹市

東リ いたみホール(伊丹市立文化会館)

權田康行

[開館準備を含む12年目/館長、財団広報紙の編集、施設連携企画など]

毎年実施している市民100人がピアノをリレー形式で演奏する企画が感染拡大に伴い中止となったため、市民から演奏動画を募り「伊丹発♪アットホームリレーコンサート」として映像をライブ配信しました。配信は初めての経験でしたが、自粛期間中に発表の場を失った市民に機会を提供することができ、参加された方から「気分が下降気味の時に

動画企画を知り嬉しかった」など感謝の声をいただくことができました。他にも、市内の文化・芸術活動を動画で紹介する特設サイトを開設するなど、コロナ禍でできることに取り組みました。

刻々と状況が変化するなか、どう対応することがベストか、正解のない対応を求められましたが、県や地域を越えた劇場と情報共有を積極的に図りました。各自治体によって求められる内容が若干異なりましたが、現場レベルでの対応については、かなりメンバー間で参考にすることができました。このネットワークは、今後もさまざまな情報共有の場として、継続していきたいと考えています。

●兵庫県豊岡市

豊岡市民プラザ

岩崎礼二

[16年目/館長・制作・舞台監督]

豊岡市民プラザがプロデュースする市民劇団、劇団「演劇FACTORY」の2019年度本公演「WarEve 戦争前夜」を3月27日、28日に予定していました。直前まで稽古を進めていましたが、劇団員の中から稽古に参加すること自体にも不安を感じる人が出始めたことや、3月19日の政府専門家会議内で兵庫県が新型コロナウイルスの拡大地域に言及されたことを受け、やむなく公演の延期を3月21日に決定しました(2021年5月22日、23日に公演予定)。実はこの時点では当地域(但馬地域・兵庫県の北部地方)での発症者は0人でした。コロナ禍の最中でも周囲のさまざまな状況を機転を利かせ、本公演を目指し直前まで稽古を続けてきた気持ちが、延期決定となりその後不参加となる劇団員も出るなど傷跡は深かったです。

当方は豊岡市民プラザの指定管理者のNPO法人であり、利用料金制のため貸館収入が激減しています。政府および兵庫県の持続化給付金を受けましたが、現在でも利用は低迷しており、最終的にどの程度の赤字になるのか非常に不安なところです。

●島根県益田市

島根県芸術文化センター「グラントワ」いわみ芸術劇場

仲西透

[2年目(※島根県民会館にて11年、その後いわみ芸術劇場へ異動)/文化事業課長]

当初は未知のウイルスに対して錯綜する情報を見極めながら日々対応を更新する必要があり、多数発生した中止公演の払い戻し対応などにより、多忙を極めました。人が集ってこそその場である劇場に人が集まることができない状況や、長期間準備してきた事業を本番の目前に中止にしなければならないケースなどもあり、劇場スタッフは大きなストレスを抱えながら日々の業務にあたっていたと思います。

反面、設置者(県)とのやり取りが増えたことや、周辺地域の安全や風評、来場者のリスク回避について議論する機会が増えたことや、「グラントワの催しが無いからさびしい」「いつから再開するの?」といった事業再開を待ち望む声や励ましの声を直接聞くことで、地域における劇場や公立施設の役

割、公共性の意味を改めて意識し、見つめ直す機会になったと考えます。

●広島市

JMSアステールプラザ

高宮敏浩

[15年目/副館長]

クルーズ船の新型コロナウイルスを気にしつつ稽古を進めていた新演出の能舞台オペラを2月16日に、創作戯曲の演劇を2月24日に無事終え緊張から解放されました。直後の26日に主催事業の中止を定めた広島市主催のイベント等の開催に関する基本方針が出され、ここからすべてが始まりました。

施設内の感染予防対策をはじめ主催事業中止の対応、施設利用者への自粛要請と作業を進めました。3月末には夏以降のキャンセルも出始め、感染拡大による影響の大きさが表出してきました。

今年度事業は様子見していましたが、4月7日の緊急事態宣言を受け、参加するすべての方々の健康・安全が最優先と判断し、オペラ公演に向けた4月末の全国オーディションをはじめ、当面6月末までの主催事業中止を決め、影響の出そうな事業も含め延期や代替公演の見直しを行いました。

9月末に計画していたオペラ公演は、歌手がフェイスシールド装着などの感染予防対策を講じたガラ・コンサートに変更しました。お客様を迎えての本格的な主催公演は7カ月ぶりでありとても緊張しましたが、オペラ公演さながらの華やかな舞台を喜んでいただくことができました。文化は贅沢品と言われますが、劇場で文化芸術に携わる私たちには生活必需品であり、その魅力と力を再認識しました。

●愛媛県新居浜市

あかねミュージアム

山本清文

[6年目/ホール運営等(運営グループ)]

職員の体調管理と感染拡大防止のための対策。まずこの2つが最も重要なこととして対応しました。しかし、現実的に頭を過ぎるのは「私たちの劇場で感染が確認されたらどうしよう」ということです。クラスターが出るたびに「〇〇はやめておいたほうが良い」ということになっていきました。確かにその通りで、この劇場に今後行き辛くなる。そのジャンルの芸術から足が遠のくということになります。

もうひとつは、「責任が取れるのか?」ということです。具体的に責任の取り方とは何なのか、今もまだわかりません。当館も3月28日～4月5日と4月18日～5月11日は臨時休館を余儀なくされました。そんな中、2018年から当館に設置されたコミュニティFM・Hello! NEW 新居浜78.0がひとつの光でした。開館から5年。ご縁をいただいた国内外のアーティストや劇場関係者に電話を繋ぎ、「今」の気持ちを伺いました。

皆、同じ思いを持っていました。「この状況で何ができるのか?」

これがすべてではないかと思います。今後も劇場運営には厳しい状況は続きます。が、考え工夫し

続けることもまた、施設を運営していく責任であると私は感じています。今回の掲載を機に同じようなことを考えている方と出会えたら嬉しいです。

●福岡県久留米市

久留米シティプラザ

森永南海子

[6年目/事業の企画・運営(事業制作課)]

全力で準備を進めてきた担当事業が「中止および延期」と決定した瞬間、頭が真っ白になってしまいました。何よりも出演者や公演を心待ちにしていたお客様の顔を思い浮かべると、言葉にはできないような「悔しい」という感情が湧き上がりました。公演の中止が決定してからは、契約書類やチケット払い戻しの事務作業に追われる日々で、現場に関わることができないもどかしさがストレスとなりました。開館以来、初めての払い戻し作業は、個人情報を取り扱うことへの緊張の中、直営館ということが相まって、役所の担当部署との密な連携に加え、その業務プロセスの多さから、効率的な意味合いでの課題を感じました。また、市の予算が直接的に関わってくるため、決裁に時間を要しました。

しかし、この辛い経験があったからこそ、無事に公演が再開できた際の喜びもひとしおで、改めて劇場から芸術を発信できる嬉しさをかみ締めることができました。

●大分県大分市

iichiko総合文化センター(大分県立総合文化センター)

工藤茂

[12年目/公演企画制作(企画普及課)]

コロナ禍での仕事は大量の払い戻しから始まりました。これほどの処理量は経験がなく、方法や条件の設定、各団体との取り決めなど、苦労しました。そのような中で、7月に「新しい生活様式」に対応した対策を講じた無料の室内楽コンサートを友の会会員様限定で2日にわたり、合計4公演実施。お客様に安心してご来場いただけるよう、職員全員で知恵を出し合い、入場方法を説明するための動画(出演・撮影・編集まですべて職員による)を制作したり、接客時に声を出さずに案内できるプラカードを作成するなど、新たな取り組みを行い、同僚の意外な特技などを知る機会となりました。

県と市で対応が異なり、公民館などは早い段階で閉鎖が決まっていたが、県立の当館は利用者が全くいない日も22:30まで開館していました。県内の多くの音楽団体が、地域の公民館で練習を行い、当館で本番を迎えるという流れであったため、日々の練習ができないとの理由で延期・中止となりました。このあたり、県と市の連携の難しさを感じたところです。

新型コロナウイルスによりホールを取り巻く環境が大きく変わりました。チケット収入が減少する中、県民ニーズの把握と安全を確保しつつ、持続性のある事業を計画していく必要があると感じました。

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

令和2(2020)年度オンライン研修の申込時期について

ステージラボの中止に伴い、2021年2月下旬に実施予定のオンラインによる研修について、12月中旬より参加者募集を行う予定です。研修に関する詳細や申込方法は、レター1月号(1月1日発行)に先行してホームページでお知らせいたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

●「ステージラボ」「オンライン研修」に関する問い合わせ
芸術環境部 児島・吉川・崎山
Tel. 03-5573-4183

●雑誌「地域創造」に関する問い合わせ
芸術環境部 吉川
Tel. 03-5573-4068

●「市町村長特別セミナー」に関する問い合わせ
芸術環境部 瀬川・佐藤
Tel. 03-5573-4185

●令和3(2021)年度ステージラボ開催地のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象にした少人数形式の実践的な研修事業です。財団設立以来20年以上にわたり、前・後期の2回(原則)開催しています。

令和3年度は、後期セッション(2022年2月下旬)のみ、穂の国とよはし芸術劇場(愛知県豊橋市)で実施予定です。詳細は地域創造レターおよびホームページでお伝えします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

●令和2(2020)年度 市町村長特別セミナー「地域経営塾」終了報告

地域創造では、文化・芸術による地域づくりへの理解を深めていただくため、全国の市町村長を対象とする「市町村長特別セミナー」を実施しています。

今年は、10月29日、30日の2日間にわたり、滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所(JIAM)との共催で「地域経営塾」が開催されました。その1日目に、文化・芸術によるまちづくりに関する講義とおんかつ支援登録アーティストによるミニコンサートを実施しました。

講義は「アートで地域社会の縁結び」と題し、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授の熊倉純子氏が登壇。熊倉氏は、アートプロジェクトが地域社会にどのような影響、効果をもたらすのかをさまざまな事例とともに解説しました。

大型芸術祭として全国的にも有名な「瀬戸内国際芸術祭」と「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」の事例では、開催当初はなかなか地域住民の理解が得られなかったものの、徐々に地域住民の協力を得られるようになったというエピソードが紹介されました。近年では、地域住民が自発的に地域のものを利用してアート作品を創作・展示するようになったり、プロのアーティストの作品に地域住民が参画したりと、芸術祭が地域住民の「創造意欲」を掻き立てる契機となり、アートが地域の連携や協働を推進するプラットフォームの役割を果たしていると熊倉氏は言います。

また、準備段階から地域住民とアーティストがアートプロジェクトを一緒に作り、それぞれが当事者意識をもって取り組んでいる事例として東京都足立区の「まちなかアートプロジェクト」が紹介されました。熊倉氏は地域住民が当事者意識をもって表現を行うことを「共創的表現活動」と位置

●雑誌「地域創造」第46号発行時期変更のお知らせ

地域創造では、芸術文化を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌「地域創造」を発行しています。今年度は2020年12月の発行を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大による取材の延期・中止等により、発行時期を変更させていただきます。発行時期については今後、地域創造レターおよびホームページでお知らせいたします。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

付けており、理論の面からもアートプロジェクトについて解説しました。アートと地域社会の繋がりについて、豊富な事例と理論の両面から理解を深められる講義となりました。

講義に続いて、地域創造おんかつ支援登録アーティストの廣田美穂さん(ソプラノ)、浅野菜生子さん(ピアノ)によるミニコンサートが行われました。廣田さんは豊富なバリエーションの曲目を歌唱するとともに、おんかつのアウトリーチで子どもたちに向けてその曲を歌う際、どのようなことを伝えたいと思って演奏しているか等を紹介。新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のため、参加者に近付くことはできなかったものの、音楽やアウトリーチに対する廣田さんの熱い思いや、楽曲に込められたメッセージが伝わってくるミニコンサートとなりました。



上：熊倉純子さんによる講義

下：廣田美穂さん、浅野菜生子さんによるミニコンサート



クリスマス&年越し・新春企画特集

恒例の「クリスマス&年越し・新春企画特集」の季節となりました。定番のプログラムからユニークな企画まで、各地の取り組みを一挙にご紹介します。

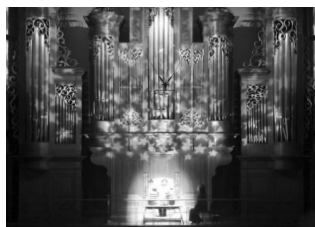
☎は会場、📞は問い合わせ先です(📺は地域創造助成事業)。

クリスマス企画

●岩手県盛岡市 12月19日
パイプオルガン プロムナード
コンサート84th〈クリスマス・
チャリティ〉

パイプオルガンと地元で活躍する演奏家によるコラボレーションを行うシリーズ企画。盛岡市民文化ホールオルガニストの渋澤久美と、紫波町在住のテナーホーン奏者・吉原美輪子がクリスマスにちなんだ曲のほか、楽器の魅力が際立つ曲目を奏でる。毎年恒例のチャリティコンサートとして、入場料は全額寄付される。

☎📍盛岡市民文化ホール
Tel. 019-621-5100



昨年のコンサートの様子

●茨城県水戸市 12月11日
新人演奏会歴代受賞者による
大人のクリスマス・コンサート
茨城県内新進演奏家の登竜門として昭和50年より開催してきた「茨城県新人演奏会」の歴代受賞者・飛田和華(ヴァイオリ

ン)をはじめ、多方面で活躍中の蛸澤亮(ファゴット)、橋本愛(ピアノ)によるクリスマスコンサート。演奏曲目はクリスマス・メドレーからモーツァルトのピアノ三重奏まで、上質な演奏をカジュアルにお届けする。

☎ザ・ヒロサワ・シティ会館
📍園いばらき文化振興財団
Tel. 029-241-1166

●千葉県市川市 12月1日
ヴァイオリン・チェロ クリスマスコンサート

過去にホール主催の「新人演奏家コンクール」で最優秀賞を受賞、現在はNHK交響楽団のヴァイオリニストとして活躍する倉富亮太と、情熱的な演奏で注目を集める若きチェリスト・笹沼樹が登場。ヴァイオリンとチェロのために作曲された二重奏曲のほか、クリスマスの名曲をデュオでお届けする。

☎市川市生涯学習センター
📍市川市文化振興財団
Tel. 047-379-5111

●東京都新宿区 12月13日
はじめてのおんがくかい クリスマスコンサート

幼児音楽教育研究家の監修のもと企画されたクリスマスコンサート。小編成オーケストラと歌、オルガンによる演奏で、クラ

シックの名曲とクリスマス・メドレーをお贈りする。子ども向けの点字プログラムを作成したり、ヒアリンググループ席を設置するなど、障がいの有無にかかわらず安心してコンサートを楽しむことのできる工夫が充実。

☎新宿文化センター
📍新宿未来創造財団
Tel. 03-3350-1141

●新潟県魚沼市 12月5日
クリスマス・ナイト・ジャズ 大隅寿男カルテット with ayuko

毎年クリスマス恒例のジャズ・コンサート。ジャズ・ドラマーの大隅寿男率いるカルテット(A.Sax. 大隅卓也、Pf.関根敏行、B.横山裕)とジャズ・ボーカリストayukoの演奏を、落ち着いた雰囲気のもと楽しむことができる。会場では、新型コロナウイルス感染症対策を実施した上でアルコール類や軽食を販売予定。

☎📍魚沼市小出郷文化会館
Tel. 025-792-8811

●新潟市 12月24日
りゅーとぴあ オルガン・クリスマスコンサート2020

今年新たに専属オルガニストとなった石丸由佳の奏でるパイプオルガンと、りゅーとぴあ演劇スタジオアクターコースから演劇を始めた俳優・山崎真波による

写真

左上：昨年の公演「音と光のクリスマス・ファンタジー」(パルナソスホール)

右上：Kitaraのニューイヤー(札幌コンサートホール Kitara)
©Hiroharu TAKEDA

左下：ジルヴェスターコンサート(横浜みなとみらいホール)
©藤本史昭

右下：新春・顔見世コンサート(兵庫県立芸術文化センター)
©飯島隆

朗読に、リゅーとぴあを拠点とするダンスカンパニー Noismの舞踊が1シーンを飾る、一夜限りのコンサート。クリスマスイブの夜を描く『くるみ割り人形』の世界をオール新潟で創り上げる。
 〇〇リゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館
 Tel. 025-224-7000

●愛知県豊橋市 12月19日
小曾根真 クリスマス・ジャズライブ

ジャズの最前線で活躍し、近年はクラシックや映画音楽などノー・ボーダーな活動を展開するピアニスト・小曾根真によるクリスマス・ジャズコンサート。劇場にインスパイアされ音を紡いでいくジャズならではの魅力を存分に味わえる豊橋だけのプログラムになっている。
 〇〇穂の国とよはし芸術劇場PLAT
 〇〇豊橋文化振興財団
 Tel. 0532-39-8810

●愛知県岡崎市 12月23日
シビックウィンターコンサート～クリスマスの小さな贈り物～

地元で活動する安藤佳子・谷川なおこ(ソプラノ)、森有加(ヴァイオリン)、佐藤千賀(サクソフォン)、石川実穂(ピアノ)の5名の音楽家たちによる、歌や演奏にトークも交えてお届けする45分間のコンサート。コロナ禍でも音楽を楽しんでもらえるような、子どもも大人も楽しめるプログラムをお届けする。
 〇〇岡崎市シビックセンター
 Tel. 0564-72-5111

●三重県伊勢市 12月19日
イルミネーション冬のフェスティバル

イルミネーション、皇學館大学CLL活動によるプロジェクト、マッピングに小さなマルシェ、大ホールでは朗読のコンサート

を実施するなど、おひとりでも気軽に楽しめるフェスティバル。朗読コンサートでは、一度は耳にしたことのある曲『くるみ割り人形』をお届けするほか、地元の少年たちによる「ボーイソプラノ伊勢」のデビュー合唱もお届けする。
 〇〇シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢(伊勢市観光文化会館)
 Tel. 0596-28-5105

●滋賀県栗東市 12月11日
さくらアトリウムコンサート vol.108 ちょっと素敵な金曜日 XmasQuartet

ホールアトリウムで定期的に開催している約1時間の無料コンサート。関西で活躍する若手演奏家(Vn.中塚哲司、Vn.村瀬響、Cb.宮田雄規、Pf.丸野敬尚)を迎え、オリジナル曲からジャズ、クラシックなどの生演奏を近隣地域の方に身近に楽しんでいただくクリスマスコンサートを開催。今回は、ちょっと素敵に金曜夕方からのステージ。
 〇〇栗東芸術文化会館さくら
 Tel. 077-551-1455

●滋賀県大津市 12月20日
びわ湖☆アートフェスティバル BAF2020クリスマス

今年で10回目を迎えるアートフェスティバル。大ホールでは、県内で精力的に活動するジュニアオーケストラが集い、びわ湖ホール芸術監督・沼尻竜典が合同演奏の指揮を執るBAFジュニアオーケストラ・フェスティバルを開催。また、中ホールでは書道パフォーマンスが、小ホールでは滋賀県次世代文化賞を受賞した堀内星良ヴァイオリン・リサイタルが開催される。
 〇〇滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
 〇〇びわ湖芸術文化財団
 Tel. 077-523-7146

●大阪府羽曳野市 11月21日～12月25日

クリスマスイベント2020
 施設全体を利用し、期間中さまざまなイベントが開催される。開幕日11月21日のウインターイルミネーションコンサート&点灯式を皮切りに、クリスマスジャズコンサート(有料公演)やクリスマスポスター展、クリスマスキャンドルナイト、クリスマス馬拉ソンコンサートなどを予定。
 〇〇羽曳野市立生活文化情報センター(LICはびきの)
 Tel. 072-950-5500

●兵庫県姫路市 12月20日
オルガンシリーズVol.7「打楽器とオルガンで贈るクリスマス」

姫路市出身の長田真実(バルナソスホールオルガニスト)が贈るオルガンシリーズの第7弾は、打楽器とのコラボレーション。クリスマスにちなんだ曲目のほか、オーケストラ作品、オルガンと打楽器のオリジナル作品など、色鮮やかでダイナミックなオルガンの音色とさまざまな音とリズムの重なりを楽しめる。また、同日開催の0歳からのコンサートでは、観客の持参する打楽器とパイプオルガンの合奏を行う。
 〇〇バルナソスホール(姫路市立姫路高等学校音楽ホール)
 〇〇姫路市文化国際交流財団
 Tel. 079-297-1141

●福岡県筑紫野市 12月12日
音楽の楽しみ方講座vol.4 X'maStrings!～弦の響で贈るクリスマスキャロル～

「音楽の楽しみ方講座」は、アーティストの演奏を楽曲や楽器にまつわるトークとともに楽しめるコンサートシリーズ。今回はクリスマス特集として、武内麻美(ヴァイオリン)、森田良平(コントラバス・ナビゲーター)、室屋麗華(ピアノ)が出演。クリスマス

に耳にするクラシック音楽やクリスマスキャロルを披露する。
 〇〇筑紫野市文化会館
 〇〇筑紫野市文化振興財団
 Tel. 092-925-4321

年越し・新春企画

●札幌市 1月11日
オペラティック・ニューイヤー～オペラの名場面をあなたに
 毎年札幌コンサートホールで開催している札幌交響楽団のニューイヤーコンサート。今回は札幌文化芸術劇場hitaruに会場を移し、指揮に沼尻竜典、ソプラノに砂川涼子、独唱・合唱にびわ湖ホール声楽アンサンブルを迎え、札幌が奏でる音楽とともに、オペラの名曲を楽しむことができる。
 〇〇札幌文化芸術劇場hitaru
 〇〇札幌コンサートホールKitara
 Tel. 011-520-2000

●宮城県加美町 1月17日
バッハホール管弦楽団2021ニューイヤーコンサート

2014年に設立され、ホールを拠点に活動するバッハホール管弦楽団による毎年恒例のニューイヤーコンサート。新型コロナウイルスの影響により、7月の定期演奏会が中止となり、8月からようやく活動を再開。指揮に松井慶太を迎え、約50名の団員が、連続テレビ小説『エール』で話題の昭和を代表する作曲家・古関裕而のメドレーやオリンピック・マーチを奏でる。バッハホール音楽院生も賛助出演予定。
 〇〇中新田バッハホール
 Tel. 0229-63-7367

●群馬県高崎市 1月1日
第31回高崎元旦コンサート

「音楽のある街・高崎」の年頭を飾る恒例の群馬交響楽団コンサート。今回は、2020年1月に

劇場の芸術監督に就任した大友直人を指揮に迎え、チェロの新倉隆、テノールの笛田博昭、ピアノの牛田智大ら国内外で活躍するソリストが「高崎元旦」に登場。新年の幕開けにふさわしい華やかな名曲をお届けする。

〔図〕高崎芸術劇場

Tel. 027-321-7302

●埼玉県川口市 1月8日～31日 アートな年賀状展2021

今年で14回目を迎える恒例の新春企画。オリジナリティ溢れる手づくりの年賀状を公募し、集まった年賀状をすべて展示する展覧会。毎年数百点が集まり、ユニークな年賀状が数多く展示される。会期中毎週日曜日には、ボランティアスタッフが作成した独楽の手づくりキットの配布も予定している。

〔図〕川口市立アートギャラリー・アトリア

Tel. 048-253-0222



昨年度の様子

●横浜市 12月31日 ジルヴェスターコンサート2020

横浜みなとみらいホール年末恒例のジルヴェスターコンサート。大規模改修のため2021年1月から約1年10カ月の間長期休館するのを前に、最後の夜を彩る。飯森範親や徳永二男ほか日本を代表する豪華ソリスト陣を迎え、日本全国選りすぐりの奏者を集めた特別編成オーケストラ「横浜みなとみらいホール・ジル

ヴェスターオーケストラ」と共に年末のムードにふさわしい作品を披露する。

〔図〕横浜みなとみらいホール

〔図〕横浜市芸術文化振興財団

Tel. 045-682-2020

●静岡県富士市 1月17日 新春富士ニューイヤーコンサート

静岡県内で活躍する静岡交響楽団によるニューイヤーコンサート。指揮者に篠崎靖男、ピアノに上原彩子を迎え、ヨハン・シュトラウス2世『トリッチ・トラッチ・ポルカ』op.214やラフマニノフ『ピアノ協奏曲第2番ハ短調』op.18、ブラームス『交響曲第1番ハ短調』op.68などを演奏する予定。

〔図〕富士市文化会館ロゼシアター

〔図〕富士市文化振興財団

Tel. 0545-60-2510

●愛知県小牧市 1月9日 新春ワンコインコンサート! 邦楽の調べ 和楽器カルテット 四輝×津軽三味線ユニット華舎組—KEYAGU—

数々の受賞歴を誇る邦楽の若手奏者たちが集結して行われる新春のワンコインコンサート。出演は箏、尺八、太鼓、津軽三味線で構成される和楽器カルテット「四輝」と、津軽三味線奏者3名によるユニット「華舎組—KEYAGU—」。年の始めにふさわしい調べを奏でる豪華なワンコインコンサートとなっている。

〔図〕小牧市味岡市民センター

〔図〕こまき市民文化財団

Tel. 0568-71-9700

●大阪府八尾市 1月10日 新春! 河内音頭やおフェスタ

新型コロナウイルスの影響により延期になった夏の恒例イベントを新春企画として開催。平穏な毎日が戻ることを願い、ご当地八尾の音頭取りが唄うほか、

オープニングトークでの「お囃子入門」や、締めくくりの「総踊り」など、来場者も共に楽しめるプログラムとなっている。なお、ホールのYouTube公式チャンネルでは、過去のイベント映像や河内音頭の踊り方を紹介し、当日はライブ配信を行う。

〔図〕八尾プリズムホール(八尾市文化会館)

〔図〕八尾市文化振興事業団

Tel. 072-924-5111

●兵庫県西宮市 1月3日 新春・顔見世コンサート

関西に馴染みが深く今後の活躍が期待される若手アーティストによるワンコイン・コンサート出演者が一堂に会するコンサートとして2020年に新たに始まり、好評を得た新春コンサート。2回目となる今回は、2021年度出演予定者から4組(『クレモナ』モダンタンゴ・ラボラトリ、白石優子、崔勝貴、前田妃奈)と、ゲストに歴代の出演者から太鼓演奏家・木村優一を迎え、選りすぐりのプログラムで華々しく新年の幕開けを飾る。

〔図〕兵庫県立芸術文化センター

Tel. 0798-68-0223

●広島県呉市 1月17日 2021くれニューイヤーコンサート

新年の幕開けを飾る広島交響楽団による恒例のニューイヤーコンサート。2021年は日本を代表するベテラン指揮者・現田茂夫、ソリストにピアニスト・三船優子が出演し、プログラムにはエドヴァルド・グリーグ『ピアノ協奏曲イ短調』やドヴォルザーク『交響曲第8番ト長調』を予定している。チケット購入者は、ホール内の託児室を利用できる(事前予約制、有料)。

〔図〕呉信用金庫ホール

〔図〕呉市文化振興財団

Tel. 0823-25-7878

●広島県廿日市市 1月17日 はつかいち ニューイヤー・ガラ・コンサート2021「はつかいち。モーツァルト、モーツァルト!」

さくらびあにゆかりのあるアーティストたちが、ピアノ協奏曲やオペラの名曲を披露する。曲目はすべてモーツァルトの作品で、ソプラノ歌手たちによる華やかな歌声と美しい音楽を楽しむことができる。2020年4月に発足したはつかいち室内合奏団「SA・KU・RA」初の単独冠主催公演でもある。

〔図〕はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ

〔図〕廿日市市芸術文化振興事業団

Tel. 0829-20-0111



はつかいち室内合奏団「SA・KU・RA」

●山口県防府市 1月8日～11日 第20回防府音楽祭〈ほうふニューイヤーコンサート2021〉

今年で20回目を迎える、防府市の新春を彩る音楽祭。初日に市内各所で行う「オープニング街角コンサート」のみ感染症対策のため動画配信となるが、以降の「プロムナードコンサート」などホールコンサートは有観客で実施。イベントの最後には、市公会堂のリニューアルを記念し、音楽祭管弦楽団によるベートーヴェン交響曲第5番『運命』が演奏される予定。

〔図〕防府市公会堂、アスピラートほか

〔図〕防府市文化振興財団

Tel. 0835-26-5151

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 崎山・児島

●2021年2月号情報締切

2020年12月21日(月)

●2021年2月号掲載対象情報

2021年2月～4月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●仙台市

宮城県美術館

〒980-0861 仙台市青葉区川内
元支倉34-1

Tel. 022-221-2111 小檜山祐幹

<https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>

令和2年度第3期コレクション 展示

年4回実施するコレクション展示の第3期。洲之内コレクション(現代画廊の経営者・洲之内徹の旧蔵品)でも人気の高い作品《猫》の作者として、近年再び注目を集める長谷川憐二郎を特集。他に、宮城ゆかりの日本画家、荘司福の新収蔵のスケッチを関連作品とともに初公開する。クレーとカンディンスキーの常設コーナーでは、クレーを愛した版画家、駒井哲郎の作品も展示する。

[日程] 9月16日～2021年1月12日

[会場] 宮城県美術館

関東

●東京都台東区

東京文化会館

〒110-8716 台東区上野公園
5-45

Tel. 03-3828-2111 福井千鶴

<https://www.t-bunka.jp/>

ミュージック・ワークショップ・ フェスタ(冬) ワークショップ・ コンサート 海の仲間の音楽会 ～ふしぎな宝箱のひみつ～

先駆的な教育普及活動を行っているポルトガルの音楽施設「カーザ・ダ・ムジカ」と連携し、2013年から始まったミュージック・エデュケーション・プログラム。年末恒例のワークショップ・コンサートは、舞台上のワークショップ・リーダーの演奏に合わせて、観客も客席にて座ったまま踊ったり、手を叩いたりして参加することができる。

[日程] 12月19日

[会場] 東京文化会館

北陸・中部

●富山県富山市

富山市民文化事業団

〒930-0858 富山市牛島町9-28

Tel. 076-445-5610 福岡・長澤

<http://www.aubade.or.jp/>

タニノクロウ×オール富山 2nd Stage『笑顔の砦'20帰郷』

劇作家で演出家のタニノクロウが出身地である富山に単身で滞在し、キャスト・スタッフとも「オール富山」で演劇を製作するプロジェクト第2弾。今回は、タニノの処女戯曲でもある群像劇『笑顔の砦』をリクリエーション。オーディションで選ばれた富山在住の俳優9名に加え、独特の存在感を放つ俳優・緒方晋(東京在住)を特別出演に迎える。20人の公募市民美術スタッフにより制作された緻密な舞台美術も見どころ。

[日程] 12月2日～6日

[会場] オーバード・ホール

●石川県金沢市

いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭実行委員会

〒920-0856 金沢市昭和町20-1

Tel. 076-232-8113 大海文

<https://www.gargan.jp/>

バレエの饗宴～クラシック・バレエ&コンテンポラリーダンス

今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年ゴールデンウィークに実施している「いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭」が中止となったため、秋の特別公演として急遽クリスマスにバレエ公演を行うこととなった。オーケストラ・アンサンブル金沢によるチャイコフスキー『弦楽セレナード』に乗せて、地元で活躍するバレリーナやバレエ教室に通う生徒を中心としたクラシックバレエとコンテンポラリーダンスをお届けする。

[日程] 12月25日

[会場] 石川県立音楽堂

近畿

●三重県津市

三重県立美術館

〒514-0007 津市大谷町11

Tel. 059-227-2100 村上敬

<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/index.shtm>

没後十年 榊莫山展

三重ゆかりの書家・榊莫山の没後10年を記念した展覧会。文字のもつ本源的なイメージを新しい造形感覚で表現した作品だけでなく、墨で描いた画に素朴な言葉を添えた「詩・書・画一体」の水墨画という独自の作品を生み出した莫山。今展覧会では、彼の遺志により、2011年に当館に寄贈された作品の中から39作品を選び、初期から晩年までの莫山芸術の軌跡をたどる。

[日程] 9月24日～12月27日

[会場] 三重県立美術館

●奈良県奈良市

奈良市アートプロジェクト実行委員会

〒630-8580 奈良市二条大路南

1-1-1(奈良市文化振興課内)

Tel. 0742-34-4942 荒益克文

<https://kotohogunara.jp/>

奈良市アートプロジェクト

「古都祝奈良2020-2021」

4回目の開催を迎えるアートプロジェクト。今回は「食」をテーマに、奈良に集う人々が共に体験し、創りあげるプログラムを展開。美術プログラムはEAT & ART TARO「動く石」を、演劇プログラムは市民が参加する「ならのまちと創る演劇」を、ラーニングプログラムは焚火を囲みながらゲストと語り合う「グリーン・マウンテン・カレッジ」を実施。一部オンライン企画を予定。

[日程] 美術プログラム：12月11日～20日、演劇プログラム：12月26日、ラーニングプログラム：12月13日

[会場] 奈良市内各所

新型コロナ関連の今年度予算総額は600億円超

制作基礎知識シリーズ Vol.47

文化庁の新型コロナ支援策

講師 吉本光宏
(ニッセイ基礎研究所 研究理事)

●生徒やアマチュアを含む地域の文化芸術関係団体・芸術家によるアートキャラバン

生徒・アマチュアを含む芸術団体やフリーランスを含む芸術家による公演・展示を全国展開するもので、(公社)日本芸能実演家団体協議会への委託が決まった。「ジャパン・ライブエール・プロジェクト」という名称で、27都道府県の文化芸術団体等と連携し、プロフェッショナルからアマチュアまでの参画を得て多彩な事業が実施される予定である。

●子供のための文化芸術体験機会の創出事業

学校一斉休業で中止せざるを得なかった鑑賞教室や子供の文化芸術体験活動が支援の対象となっており、「文化芸術による子供育成総合事業」の一環として位置づけられている。学校の提案によるものと、芸術団体等のプログラムの中から選択するものの2種類があり、全国で671校が採択された。

●文化芸術の継続支援の実績(2020年11月6日時点)

申請総数: 54,236件(速報値)

採択実績: 30,144件(うち確認番号あり17,364件)

分野別採択件数: 音楽(12,804件)、演劇(7,259件)、舞踊(2,068件)、映画・アニメーション(926件)、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術(399件)、伝統芸能(822件)、大衆芸能(1,454件)、美術(2,750件)、写真(412件)、生活文化(97件)、国民娯楽(94件)、舞台スタッフ(1,059件)

*1 このうち文化芸術関係は950件。

*2 事前確認団体のプロ認定では、「過去3年間(2017年度以降)において複数回、不特定多数が集まる事業に携わったことがあること」など、募集案内に記載されているものと同様の要件の確認が求められている。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、文化施設の休館や文化事業の中止、延期が始まったのは2月下旬。以来、アーティストや芸術団体だけでなく、文化に携わる多くの人々の収入が途絶え、仕事の機会が失われた。

それから9カ月が経過、政府による催し物の入場制限は、大声での歓声・声援等がないクラシック音楽や演劇、舞踊等の公演、展覧会については最大100%までに緩和されている(当面来年2月末まで)。劇場・音楽堂等や美術館・博物館等は、関係団体が発表した感染拡大予防ガイドラインに沿って事業を再開させているが、先行きの不安な状況が続いている。

政府は4月に閣議決定した「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」(1次補正予算)の中で文化芸術への支援策を打ち出した。文化庁は「自粛要請期」「再開期」「反転攻勢期」に分けて支援策を展開。その後6月に2次補正予算が成立し、文化庁の新型コロナ関連の予算総額は600億円を超えた。文化庁の年間予算の半分以上の規模である。

●1次補正による支援

政府が東京、大阪ほか5県に緊急事態宣言を発出したのは4月7日(16日に全国に拡大)。文化庁が新型コロナ対策として最初に公募を始めたのは、約1カ月後の5月1日。中止や延期等になったイベントの参加者が、チケットの払い戻しを放棄することを選択すれば、チケット料金分について寄附金控除が受けられるというものだ。イベント主催者の損失軽減と、減税という観客への恩恵を組み合わせた仕掛けである。

主催者が対象事業を申請して指定を受ける仕組みで、10月16日現在、スポーツを含めて1,087件のイベントが指定されている^(※1)。対象となるイベントは現在も募集中だ。

次いで5月25日に公募が始まったのが、文化施設の感染症防止対策事業で、1,414件の申請があり、1,379件の交付が決定している。劇場・音楽堂や博物館の感染症防止には400万円までが、博物館の時間制来館者システムの導入には300万円までが支給される。採択リス

トを見ると、立地や規模に関係なく数多くの文化施設が文化庁の支援を受けて感染防止対策を実施していることがわかる。

その後、6月下旬に「生徒やアマチュアを含む地域の文化芸術関係団体・芸術家によるアートキャラバン」の、7月下旬に「子供のための文化芸術体験機会の創出事業」の募集が行われた。既に採択団体が決まり、前者は9月から、後者は10月から年度末にかけて具体的な事業が実施される予定である。

●2次補正で文化芸術活動の継続支援

予算の規模や支援内容で注目できるのは、2次補正予算で始まった2つの支援事業だ。中でも7月10日に募集が始まった「文化芸術活動の継続支援事業」の予算規模は500億円を超える(スポーツを含む)。新型コロナウイルスの感染拡大によって、舞台芸術等の活動自粛を余儀なくされた個人や小規模団体等に対して、活動の継続に向けた積極的取り組み等を支援しようというものだ。

支援の対象には、実演家や技術スタッフなどのフリーランスを含む個人事業者が含まれている。新型コロナで深刻な打撃を受けたフリーランスのアーティストや文化従事者の活動継続を支援しようという狙いからだ。

そのため、比較的申請が容易な上限額20万円の枠組みが設けられるとともに、原則オンラインでの申請となった。補助の対象となる取り組みは、①国内外の観客、参加者等の回復・開拓、②活動の継続・再開のための公演・制作方法等の検討・準備・実施、③雇用契約の明文化等の経営・ガバナンスの近代化の3つ。また、これらの取り組みと併せて行う、業種ごとの新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに即した取り組みも対象となる。

支援の条件は、不特定多数への公開によってチケット収入等をあげていることなどであるが、個人については、プロの実演家、技術スタッフ等であることも条件とされている。そのために設けられたのが申請条件の事前確認の仕組みだ。

具体的には、各分野の統括団体等が申請者の希望に応じて確認の手続きを行い、条件を満たしている場合は承認・確認番号が発行される^(※2)。申請時にその番号を入力すれば、確定申告書などの事業収入を証明する書類や活動歴を確認できる資料の提出を省略できる。

事前確認団体として認定されているのは70団体。大半は舞台芸術や芸能分野の統括団体であるが、(一社)日本美術家連盟の中に美術部門の事前確認窓口が設けられた。団体に属さず、個人で活動する美術家等にも申請のハードルを下げようという配慮だ。

ただ、申請者自身への支払いは補助対象経費に含まれていない。これは、「持続化給付金」(5月1日申請受付開始、現在も継続中)で、フリーランスを含む個人事業者に100万円までの給付を行う制度が別途用意されているためである。実際、持続化給付金で自身の収入を確保し、活動を継続するためにこの支援制度に申請するアーティスト等は少なくないという。

募集は9月30日締切の第3次まで行われ、申請総数は約5万4,000件。特に9月に行われた第3次募集では3万件を超える申請があったという。そのため、SNS上では決定通知の遅れを指摘する投稿もみられ、事務量が膨大で対応が追いついていない面は否めない。

その後、全件採択しても予算の執行率が3分の2程度にとどまる見込みであることもあり、11月25日～12月11日に新規募集が行われることになった。事業の実施期間も来年2月28日まで延長され、個人や任意団体についても交付決定額の50%を上限に概算払いができるなどの変更も行われている。

●文化芸術収益力強化事業

これは、元々1次補正予算の14億円を財源に「最先端技術を活用した文化施設の収益力強化事業」として準備されたもので、8K等の高精細コンテンツの配信や鑑賞のモデル事業を構築し、舞台芸術団体や劇場、博物館の収益構造の改革や自律的な運営を目指す、というものだった。

しかし、最先端技術の映像配信等に限定しないように事業の枠組みが見直され、2次補正予算の50億円が追加されて今の形になった。事業名は収益力強化となっているが、新型コロナなどで公演が中止になり、チケット収入がなくなった場合でも、別の方法で収益を得られる事業に新たにに取り組むことを促すのが狙いである。

この事業では、採択団体は自ら事業を行うだけでなく、他の団体からも事業を公募することになっている。いわば、採択団体をパートナーとして幅広い支援を行おうというもので、従来の文化庁の補助金にはないユニークな仕組みと言える。採択された10団体は、既にそれぞれの強みを活かした事業を開始している。



新型コロナの危機に、文化庁は年間予算の半分を超える資金を投じてさまざまな支援策を講じた。来年度の概算要求でも、コロナ対応関係として520億円が計上されている。文化芸術関係者には、文化庁の支援に加え都道府県や他省庁の支援策も活用しながら、新型コロナの危機を乗り越えてほしいと願うばかりである。

●文化芸術収益力強化事業の採択団体ごとの取組名

- ・(株)IMAGICA GROUP: 高臨場感ライブビューイング、プラネタリウム型ドームシアター、XR LIVE動画配信、2D3D同時視聴バリアフリー型シアター等を活用した文化芸術収益力強化事業
- ・NPO法人映像産業振興機構: ライブハウス・ミニシアター等との連携による芸術・エンタメ分野の新たなビジネスモデル創造事業
- ・(株)キョードーファクトリー: 次のにない手を育成する子ども向けコンテンツ制作事業
- ・(公社)全国公立文化施設協会: 劇場・音楽堂等コンテンツ配信ポータルサイト「公文協シアターアーカイブス」パイロット公演動画配信事業
- ・寺田倉庫(株): 緊急舞台芸術アーカイブデジタルシアター化支援事業
- ・東急(株): 高度映像配信プラットフォームを活用した多拠点映像配信環境の構築によるwithコロナ時代の新しい鑑賞環境サービスの提供
- ・凸版印刷(株): デジタル技術を活用した映像配信による新たな収益確保・強化事業
- ・(株)乃村工藝社: 博物館等における「新しい関係性の構築」による収益確保・強化事業
- ・(株)precog: バリアフリー型の動画配信プラットフォーム事業
- ・ヤマハ(株): 鑑賞型から参加型へのシフト及び海外市場の開拓を通じた新たなビジネスモデルの確立

文化庁 新型コロナウイルス感染症に伴う文化芸術への支援策

支援・事業名称	公募・実施時期	支援内容	予算規模
チケット寄附税制	5月1日～ 募集継続中	中止になった事業のチケット寄附による減税	1万円のチケット代金の寄附で最大4,000円の減税
文化施設の感染症防止対策事業	公募: 5月25日～6月19日 補助対象期間: 4月1日～2021年2月28日	劇場・音楽堂、博物館の感染防止のために 博物館の時間制来館者システムを導入	400万円まで(原則) 300万円まで
生徒やアマチュアを含む地域の文化芸術関係団体・芸術家によるアートキャラバン	公募: 6月26日～7月17日 実施: 9月～2021年3月末	地域住民参加型の活動を各地で実施	1地域当たり 5,000万円程度
子供のための文化芸術体験機会の創出事業	公募: 7月20日～9月3日 実施: 10月1日～2021年2月26日	中止となった鑑賞教室等の実施を支援	全額支援
文化芸術・スポーツ活動の継続支援	公募 第1次: 7月10日～31日 第2次: 8月8日～28日 第3次: 9月12日～30日 新規募集: 11月25日～12月11日(事業実施期間は2021年2月28日まで延長)	フリーランスの実演家等を支援 より積極的な取り組みを行うフリーランス等を支援 小規模な文化芸術団体を支援	簡易な手続・審査による活動費支援20万円まで 150万円まで応募可能 150万円まで(共同活動は10者・1,500万円まで)
文化芸術収益力強化事業 (最先端技術を活用した文化施設の収益力強化事業)	公募: 7月9日～8月6日 採択団体による公募実施中 ※博物館とエンタメコンテンツとの連携支援は7月17日～8月14日	中・大規模な文化芸術団体を支援(小規模団体も応募可) 博物館の新しいモデルを導入 博物館とエンタメコンテンツとの連携を支援	事業規模に応じた支援 1,000万円程度 3,000万円程度
			64億円 (1・2次補正)

出典: 文化庁HP掲載情報に基づいて作成。このほかに、国の文化芸術関係の支援制度には「コンテンツグローバル需要創出促進補助金(J-LODlive): 公演の収録映像の海外発信に5,000万円までを支援」「持続化給付金(本文参照)」「持続化補助金: 小規模事業者の販路開拓等を支援」などがある。

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

大分県大分市

iichiko総合文化センター グランドオペラ共同制作 『トゥーランドット』



グランドオペラ『トゥーランドット』
写真提供: 大分県芸術文化スポーツ振興財団

●グランドオペラ共同制作『トゥーランドット』
【主催】大分県芸術文化スポーツ振興財団 (iichiko総合文化センター)、神奈川芸術文化財団 (神奈川県民ホール)、山形県総合文化芸術館 指定管理者みんなのやまがた (やまぎん県民ホール)、東京二期会、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽協会 (山形交響楽団)
【会期】2020年10月24日 (10月17日、18日に神奈川公演、31日に山形公演)
【会場】iichiko総合文化センター iichikoグランシアタ
【指揮】佐藤正浩
【演出・振付】大島早紀子

●グランドオペラ共同制作
文化庁「文化芸術振興費補助金 劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (共同制作支援事業)」の支援を得て単館では実現できない大規模なグランドオペラを日本各地で上演する取り組み。神奈川県民ホールが幹事館を務め東京二期会が制作に加わる形で実施しており、最近の作品に2018年『アイダ』(札幌市、神奈川県、兵庫県、大分県)、2019年『カルメン』(神奈川県、愛知県、札幌市)などがある。各地の芸術団体がオペラに関わる貴重な機会になっている。

*パンダ 舞台裏で演奏する小規模アンサンブル。

集団での発声を伴い、制作に関わる人数が多いため新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けているオペラ。藤原歌劇団はソリストと合唱がフェイスシールドを着用した『カルメン』(8月15日～17日)を上演し、東京二期会は舞台とオーケストラピットの間に常時紗幕を下ろした『フィデリオ』(9月3日～6日)を上演するなど、さまざまな工夫を凝らした形で公演を再開した。

文化庁の文化芸術振興費補助金を得て神奈川県民ホールと東京二期会が中心となり毎年創作されてきたグランドオペラ共同制作『トゥーランドット』もキャストを一部変更し、神奈川・大分・山形での3都市開催に漕ぎ着けた。今回は大分県のiichiko総合文化センターでの模様とコロナ対応への取り組みを紹介する。

同センターでは1998年の開館当初から市民ボランティアのemoスタッフ (現在の登録メンバーは48人) がホールのレセプションニストを務めている。今回もその市民たちが感染予防を学んで対応した。オーケストラピットは通常よりも50cm深く、舞台からの飛沫を防止するためピットの上にアクリル板の底を設置し、指揮者と管楽器を除く楽団員はマスク着用で演奏した。印象的だったのは、合唱団が配されていた舞台上下の円柱形の建物だ。内部は3階建てで、小さな個室が各団員に割り当てられていた。飛沫実験を踏まえ、合唱団員同士の感染予防に配慮した結果だという。通常の合唱とは全く異なる状況ながら、それぞれの部屋から発せられる歌声がホールの音響空間に美しく響き渡っていた。

出入国制限により来日できなくなったアルベルト・ヴェロネージの代役としてオペラ指揮者として定評のある佐藤正浩が神奈川フィルを指揮。演出・振付を東京二期会での『ファウストの

劫罰』以来10年ぶりのオペラ演出となるH・アール・カオス主宰の大島早紀子が担った。薄暗い照明、迫力ある演奏のなか、白河直子を中心とした5名の女性ダンサーがワイヤーで宙づりにされながら縦横無尽に動き回る。カンパニー名のHが意味する“ヘブン”を象徴するかのよう、終幕では天国に通じる恍惚感が漂っていた。

大分へは神奈川公演を終えた総勢250名のツアーメンバーがPCR検査を受けて入ったが、大所帯だけに目に見えない感染予防費用が重なったという。それでも開催を決めた経緯について副館長の酒井宏さんは次のように話す。

「財団の主催事業としてオペラ、オーケストラ、バレエを毎年順番に実施してきた。今年はオペラとオーケストラをプログラムしていたが、12月に予定していたドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団は来日が中止に。オペラは東京二期会の理事長だった中山欽吾さんが当館館長を務めていたご縁でグランドオペラ共同制作に参加し、今年で6回目になる。3年かけて準備しているが、今回はコロナ禍真っ只中の4月に共同制作の3館と東京二期会でどうするか協議した。舞台美術をつくり始めると後戻りができなくなるので製作をぎりぎり7月末まで待ってもらうことにした。大分県は感染者数が少ないこともあり、緊急事態宣言中も休館はせず、劇場は開店休業状態のまま5月末からチケット発売を開始した。7月に入ってから週1回のペースで主催者間でZoom会議を行い、神奈川県民ホールと東京二期会から実現に向けた具体的なプランが提案された。大分県内にはPCR検査ができる民間会社がないため、神奈川を出発する前に検査を受け、全員陰性を確認してから大分入りした。劇場内ではツアーメンバーと地元から参加するパンダ(*)や児童合唱のメンバーが交流しないよう動線を分け、楽屋も普段より離れた場所に設置するなどの対策を講じた。共同制作により制作経験豊富な神奈川県民ホールと東京二期会のサポートで職員にもノウハウが蓄えられてきた。それなくして大分でのオペラ公演は実現できず、今回も改めてそのメリットを感じた」 (横堀応彦)

●iichiko総合文化センターの新型コロナウイルス感染症への対応

5月30日 『トゥーランドット』チケット発売	9月9日 関連企画「青島広志のおしゃべりオペラ ティックコンサート」を開催
7月4日 公演再開に際してのお知らせとお願い動画 (iichiko音の泉ホール編)をYouTubeで公開	9月17日 『トゥーランドット』ソリスト変更を発表
7月5日、24日 室内楽コンサートを開催	9月25日 『トゥーランドット』指揮者変更を発表
8月10日 iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ 第11回定期演奏会 (3月29日の振替公演)	10月13日 ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団開催中止を発表
8月14日 公演再開に際してのお知らせとお願い動画 (iichikoグランシアタ編)をYouTubeで公開	10月24日 『トゥーランドット』大分公演